

# アブラナ科野菜の黒斑細菌病の発生生態に基づいた体系的な防除法

野菜花き試験場

## 1 技術の要約

近年、県内のアブラナ科野菜産地で問題となっている黒斑細菌病は、新型の病原菌が原因となることを明らかにし、その発生生態に基づいた防除体系を構築しました。耕種的および化学的防除法など複数の防除技術を組み合わせることで黒斑細菌病を効果的に防除できます。

## 2 技術の内容

近年、県内で発生しているアブラナ科野菜の黒斑細菌病はシュードモナス・カンナビナ・パソバ・アリスレンシスという新型の病原菌が原因であることを明らかにしました。この病原菌の発生生態に基づいた防除対策①～⑥が有効で、これらを組み合わせることで高い効果が得られます。

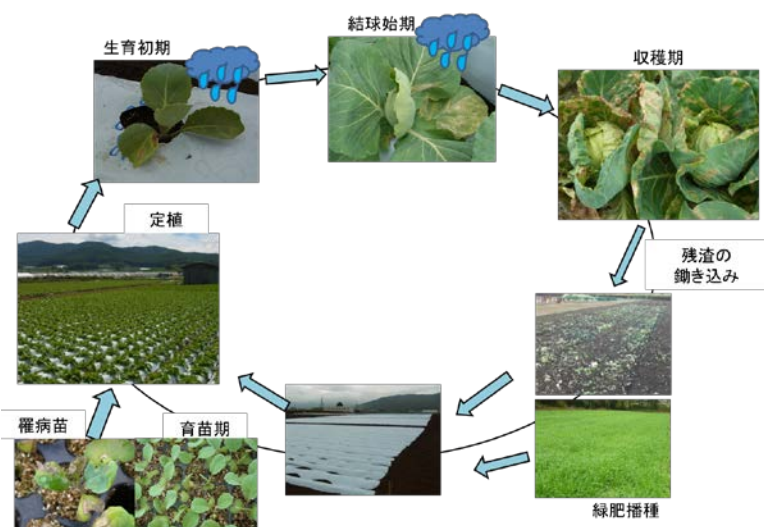


図 1 アブラナ科野菜の黒斑細菌病の伝染環

### 発生生態

黒斑細菌病は、本場に持ち込まれた罹病苗が伝染源となり、生育初期から発生し、断続的な降雨により、ほ場全面に拡大します。その後、罹病したアブラナ科野菜または緑肥作物（エンバクなど）の残渣中で、翌作まで病原菌が生存し、発病のサイクルを繰り返すと考えられます。

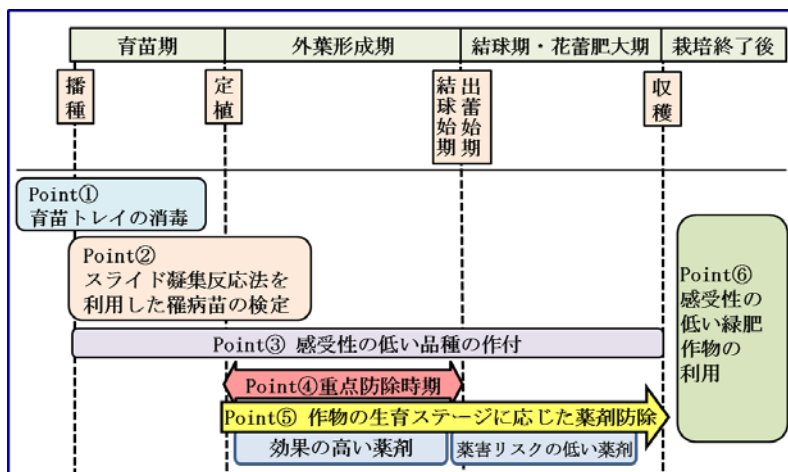


図 2 アブラナ科野菜の黒斑細菌病防除のポイント

### 防除対策

- ① 育苗トレイの消毒
- ② スライド凝集反応法を利用した罹病苗の検定
- ③ 感受性の低い品種の作付
- ④ 重点防除時期の薬剤防除
- ⑤ 作物の生育ステージに応じた薬剤防除
- ⑥ 病原菌が感染しない緑肥作物の選定